



ログの収集

このセクションでは、次の点について説明します。

- [ログの収集 \(1 ページ\)](#)
- [ログ収集センター/デバイス ログ コレクター \(2 ページ\)](#)
- [トレース レベルの設定 \(5 ページ\)](#)
- [ログ収集テンプレート \(6 ページ\)](#)
- [コールログの収集 \(6 ページ\)](#)

ログの収集

Cisco Prime Collaboration Assurance を使用すると、コール ログを収集して、Cisco Voice Portal (CVP)、Unified Contact Center Enterprise (Unified CCE)、Cisco Unified Communications Manager (Unified CM)、Cisco Unity Connection (CUC)、Cisco IM and Presence (Cisco IM & P)、Cisco IOS ゲートウェイでの障害を識別できます。この機能により、コールの問題のトラブルシューティングができます。SIP Call Flow Analyzer 機能を使用し、収集したコールをさらに詳しく調べて、メッセージ内の問題点を特定することができます。また、問題の再現にも役立ちます。SIP Call Flow Analyzer 機能の詳細については、「[コールシグナリングの分析](#)」を参照してください。

具体的には、次のような点で役立ちます。

- コールの問題のトラブルシューティングのためのコストを削減する。
- コールの問題のトラブルシューティングのための時間を短縮する。

前提条件

- Cisco Prime Collaboration Assurance のユーザ インターフェイスを使用して、デバイスのデバッグ レベルを設定します。

この機能の要件およびサポートされる内容は次のとおりです。

この機能に必要な最大ディスクサイズ。	小規模のプロファイル場合は 25 GB、中規模および大規模のプロファイルの場合は 50 GB。
--------------------	---

同時にログ収集対象にできるデバイスの最大数。	100
同時に実行されるログ収集ジョブの最大数	3
1つのインスタンスでダウンロードできる zip 形式のログ ファイルの最大サイズ。	<p>小規模のプロファイルの場合は 0.5 GB、その他のプロファイルの場合は 1 GB。</p> <p>(注) このサイズには、すべてのデバイスとコールが含まれています。zip ファイルのサイズが上記のサイズを超えると、ログは複数の zip ファイルに分割されます。小規模のプロファイルの場合は 0.5 GB のファイルに、その他のプロファイルの場合は 1 GB のファイルに分割されます。</p>



- (注)
- System CLI ツール、または別の Cisco Prime Collaboration Assurance サーバ 10.5 以降から収集したログのみがサポートされています。
 - デバイスのタイムゾーンは System CLI ツールからは収集されません。
 - この機能では、デバイスインベントリ がないデバイスのログも提供します。
 - オペレータおよびヘルプデスク ユーザはデバイスからコール ログを収集できません。また、[デバイス ログ コレクタ (Device Log Collector)] メニュー ページへアクセスすることもできません。

ログ収集センター/デバイス ログ コレクター

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

Cisco Prime Collaboration Assurance を使用すると、次のページで使用できるデバイス ログ コレクタから通話ログを収集できます。[診断 (Diagnose)] > [デバイス ログ コレクター (Device Log Collector)] 次の Unified Communications(UC)コンポーネントの場合は、次のようになります。

デバイス タイプ	サポートされるリリース	コンポーネントまたはログのタイプ
Cisco Unified Communications Manager (Unified CM)	9.x 以降	すべての
IOS ゲートウェイ (TDM、CUBE (Enterprise Edition) 、VXML GW)	15.1(4)M 以降	show logging コマンドの出力
Cisco Unity Connection (CUC)	9.x 以降	すべて

デバイス タイプ	サポートされるリリース	コンポーネントまたはログのタイプ
Cisco IM and Presence	9.x 以降	すべて

[Devices] ペイン

[Devices] ペインでは次の情報を使用できます。

- [Hostname] : デバイスのホスト名
- [IP Address] : デバイスの IP アドレス
- デバイス タイプ
- のデバイス インベントリで管理 - デバイスがのデバイス インベントリ で管理状態にあるかどうかを表示します。コラム値が [いいえ (No)] の場合、デバイスはのデバイス インベントリにはなく、のデバイス ログ コレクタのみに追加されているか、デバイスはのデバイス インベントリで **Managed** 状態にはないことを示します。
- 接続ステータス - デバイスは、のデバイス ログ コレクタで提供されているクレデンシャルを使用してアクセスできるかどうかを表示します。
- [TimeZone] : デバイスのタイムゾーンを表示します。

のデバイス インベントリにあるデバイス (UC コンポーネント) をのデバイス ログ コレクタに追加または更新するには、デバイスを選択するか、すべてのデバイス グループを選択し、の **[インベントリ管理に同期 (Sync to Inventory Management)]** をクリックします。のデバイス ログ コレクタおよびのデバイス インベントリにあるデバイスは、次の方法で同期されます。

- 自動 : のデバイス インベントリにあるデバイスは、1 時間ごとに同期されます。
- 手動 : の **[インベントリ管理に同期 (Sync to Inventory Management)]** ボタンをクリックすると、のデバイス インベントリにある UC コンポーネントは、のデバイス ログ コレクタにあるデバイス リストに追加されます。

定期的な同期は1時間ごとに実行されます。のデバイス インベントリ内のデバイスが削除されている場合、同期したとしても のデバイス ログ コレクタからデバイスは削除されません。新しいデバイスがのデバイス ログ コレクタに追加またはデバイスが更新された場合、接続ステータスは同期後に更新されます。



(注)

- 同期は、のデバイス インベントリからのデバイス ログ コレクタのみへと行われます。
- 同期後に、のデバイス ログ コレクタのクレデンシャルは、のデバイス インベントリのクレデンシャルによって上書きされます。したがって、デバイス インベントリと デバイス ログ コレクタでは、同じクレデンシャルの使用を推奨します。
- のデバイス インベントリでは、**Managed** 状態にあるデバイスのみが同期されます。
- DWC デバイス インベントリ<内のデバイスが削除され、のデバイス ログ コレクタ内では削除されていない場合でも、のデバイス ログ コレクタではログ収集を実行できます。
- DWC デバイス インベントリ IOS ゲートウェイに CLI クレデンシャルがない場合、のデバイス ログ コレクタには同期されません。

デバイスのグループ化

同じ時間に同じタイプの UC コンポーネントからログを収集するには、UC コンポーネントのカスタム グループを作成して、デバイス グループを選択してコールを収集します。

事前定義されているグループを追加、編集、削除することも、グループ内のデバイスを変更することもできません。

ユーザ定義のグループを作成、編集、または削除することができます。ユーザ定義のグループのデバイスは追加、または削除することができます。次を実行できます。

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

タスク	詳細
グループの作成	をクリックします。[診断 (Diagnose)] > [デバイス ログ コレクタ (Device Log Collector)] > [グループ (Group)] > [新規作成 (Create New)]。
グループの編集	をクリックします。[診断 (Diagnose)] > [デバイス ログ コレクター (Device Log Collector)] の順にクリックしてデバイスまたはグループを選択し、[グループ (Group)] > [グループの編集 (Edit Group)] をクリックします。
グループの削除	をクリックします。[診断 (Diagnose)] > [デバイス ログ コレクター (Device Log Collector)] の順にクリックしてデバイスまたはグループを選択し、[グループ (Group)] > [グループの削除 (Delete Group)] をクリックします。 所要時間
グループへのデバイスの追加	をクリックします。[診断 (Diagnose)] > [デバイス ログ コレクター (Device Log Collector)] の順にクリックしてデバイスまたはグループを選択し、[グループ (Group)] & [グループの削除 (Delete Group)] をクリックします。 所要時間
グループからのデバイスの削除	をクリックします。[診断 (Diagnose)] > [デバイス ログ コレクター (Device Log Collector)] でデバイスを選択し、[グループ (Group)] > [グループに追加 (Add to Group)] をクリックします。
グループ内のデバイスの表示	Device Group Center からグループを選択します。グループのデバイスが [Devices] ペインに表示されます。

その他のタスク

次のタスクは、の [デバイス ログ コレクタ (Device Log Collector)] ページのデバイス ペインから実行できます。[Devices] ペインからタスクの実行対象にするデバイスを選択し、必要に応じて次の処理を実行します。

タスク	詳細
クレデンシャルの変更	デバイスのポート番号またはクレデンシャルの詳細を変更するには、[クレデンシャルの変更 (Modify Credentials)] ボタンをクリックします。デバイス タイプは変更できません。

タスク	詳細
タイムゾーンの変更	デバイスのタイムゾーンを変更するには、[タイムゾーンの変更 (Modify Time Zone)] ボタンをクリックします。デフォルトでは Cisco Prime Collaboration Assurance サーバのタイムゾーンが表示されます。

デバイスの接続テスト

指定されたクレデンシャルでデバイスにアクセスできるかどうかをテストするには、デバイスを選択して [接続性テスト (Test Connectivity)] ボタンをクリックします。メッセージが表示され、結果がユーザに通知されます。「[接続ステータス (Connectivity Status)]」列の値は、必要に応じて更新されます。

接続テストのトラブルシューティング

接続テストに失敗した場合は、次の内容を確認してください。

- ポート番号。
- デバイスのクレデンシャル情報が、のデバイスインベントリのもと同じであることを確認します。
- Cisco Prime Collaboration Assurance Server からデバイスへの ping が正常であること。

トレース レベルの設定

この機能は、デバイスの各コンポーネントに対してトレース レベルを設定する場合に便利です。次のデバイスに対してトレース レベルを設定できます。

- Cisco Unified Communications Manager
- IOS ゲートウェイ
- Customer Voice Portal
- Cisco Unity Connection
- Cisco IM and Presence

Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

移行方法 [診断 (Diagnose)] > [デバイス ログ コレクター (Device Log Collector)]。

トレース レベルを設定する 1 つ以上のデバイスを選択して [Set Trace Level to Devices] ボタンをクリックします。[Set Trace Level to Devices] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[デバイス タイプ (Device Type)] ドロップダウン リストからデバイスを選択します。選択したデバイスのコンポーネントがリストされます。発生した問題に関連するコンポーネントについて、適切なトレース レベル ([No Change]、[Default]、[Warning]、[Information]、[Debug]) を選択して [Apply] ボタンをクリックします。



(注) トレース レベルの設定により、ネットワークのパフォーマンスが低下することがあります。

ログ収集テンプレート

ログ収集テンプレートを使用して、複数のデバイスとコンポーネントのログをまとめて収集することができます。ログを収集するには、テンプレートの使用が必要です。新しいテンプレートを作成することも、デフォルトのテンプレートを使用することもできます。

テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Cisco Prime Collaboration リリース 11.5 以降の場合

選択 [診断 (Diagnose)] > [デバイス ログ コレクター (Device Log Collector)] [トレーステンプレートの管理 (Manage Trace Template)] ボタンをクリックします。

ステップ 2 [Manage Trace Template] ペインで [Add] をクリックします。

ステップ 3 テンプレート名と説明を入力し、[Component] ペインでデバイス タイプとコンポーネントを選択します。複数 (またはすべて) のデバイスとコンポーネントを選択することもできます。コンポーネントの詳細については、の「[ログ収集センター/デバイス ログ コレクター](#)」を参照してください。

使用できるデフォルトのテンプレート (コールトレースと呼ばれる) があります。このテンプレートには 4 つのデバイス タイプ (Unified CM、Unified CCE、CVP、IOS ゲートウェイ) があり、あらかじめ選択されているコンポーネントがあります。このテンプレートは変更できません。

ステップ 4 [Save (保存)] をクリックします。テンプレートが正常に保存されたことを通知するメッセージが表示されます。[Manage Trace Template] ページの [Templates] の下に新しいテンプレートが表示されているのが確認できます。

特定のテンプレートのコンポーネントを表示するには、テンプレートを選択して [Summary] をクリックします。テンプレートを変更するには、テンプレートを選択します。テンプレート名、説明、およびコンポーネントを変更できます。テンプレートを削除するには、テンプレートを選択して [Delete] をクリックします。

(注) テンプレートを作成、編集、および削除できるのはスーパー管理者のみです。他のユーザは、テンプレートの概要を表示することと、ログの収集用にテンプレートを使用することだけが可能です。

コール ログの収集

ログの収集はオンデマンドで実行されます。

グループ内の1つ以上のデバイスを選択し、[Collect Logs] ボタンをクリックしてログを収集します。[Collect Logs] ダイアログボックスが表示されます。必要な情報を入力します。ジョブ名とファイル名は自動的に入力されますが、修正することもできます。ここで選択したタイムゾーンがログの収集に使用されます。

[Use Template] ドロップダウンリストからテンプレートを選択します。

[Run] をクリックします。ジョブがトリガーされるかどうかを通知するメッセージが表示されます。ジョブは、[Log Collection Jobs] ペインの下に一覧表示されます。[Progress Status] 列には、ログの収集対象として選択されたデバイスの総数の中で、ログがダウンロードされたデバイスの数が示されます。たとえば、2 of 3 (3 台のうち 2 台) となります。[Download to local] ボタンをクリックすると、ジョブを選択してログを収集できます。zip で圧縮されたファイルサイズが (小規模のプロファイルで) 0.5 GB を超えている場合、または (中規模または大規模のプロファイルで) 1 GB を超えている場合は、複数の圧縮ファイルに分割されます。



(注) ファイル名の拡張子 `.zip` は変更しないでください。zip で圧縮されたファイルを解凍すると、拡張子 `.gz` が含まれていることがあります。

[Log Collection Jobs] ペインの下の [Delete] ボタンを使用してジョブを削除することができます。

これらのジョブは [ジョブ管理 (Job Management)] ページ ([システム管理 (System Administration)] > [ジョブ管理 (Job Management)]) にも一覧で表示されますが、このページからログ ファイルをダウンロードすることはできません。



(注) ログ収集ジョブの詳細が必要な場合は、<https://<ip-address>/emsam/log/Troubleshoot/LogCollectionManagerImpl.log> を参照してください。<ip-address> には、Cisco Prime Collaboration Assurance サーバの IP アドレスを指定します。この URL は管理者ロールを持つユーザが表示することが可能で、ログ収集に関する問題をトラブルシューティングする場合に役に立ちます。
